

UI-TURN 誰もが活躍できる町

島根県川本町移住パンフレット

2024-2025



川本町
移住
案内



島根県川本町
SHIMANE KAWAMOTO-MACHI

ようこそ、かわもとまちへ



島根県のほぼ中央に位置する川本町は、中国地方随一の大河「江の川」の水運により、古くから「石見銀山（世界遺産）」の玄関口として栄え、交流の町として発展してきました。

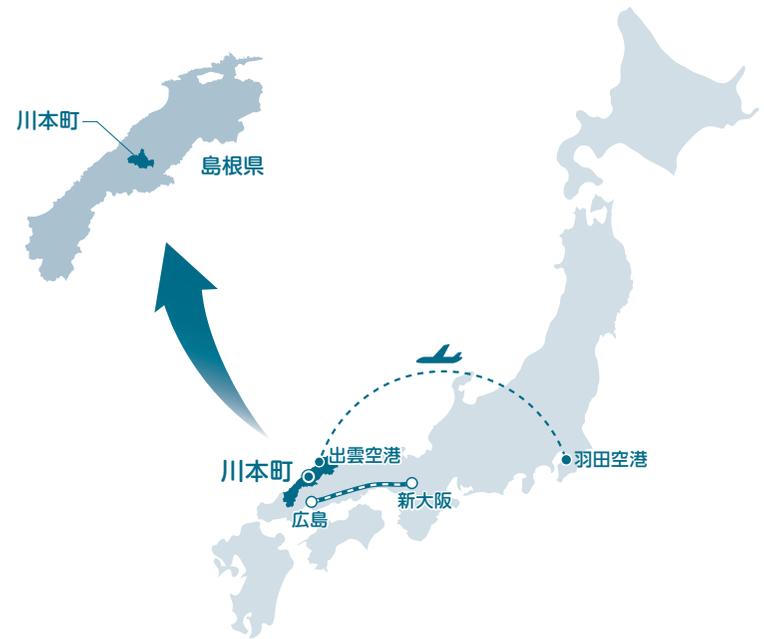
訪れる人々の心の原風景を呼び起こす歴史や文化、地域資源が溢れるこの町での未来へのチャレンジを「かわもとワンチーム」で応援します。

川本町長 野坂一弥

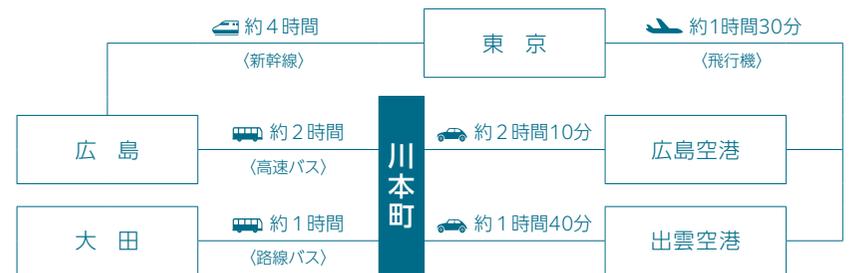
INDEX

川本町のこと	04	川本町での仕事	12
川本町での子育て	06	移住総合相談窓口	14
川本町の教育環境	08	先輩移住者紹介	15
川本町での住まい	10		





アクセス



お車でお越しの場合

広島市街から約1時間45分（浜田道「大朝IC」経由）
 出雲市街から約1時間30分／浜田市街から約1時間30分

公共交通機関をご利用の場合

JR山陽本線「広島駅 新幹線口」より高速バス（石見銀山号）約2時間
 JR山陰本線「大田市駅」より路線バス（石見交通）約1時間
 JR山陰本線「江津駅」より路線バス（石見交通）約1時間

丁度いい暮らしが魅力のコンパクトタウン 川本町のこと

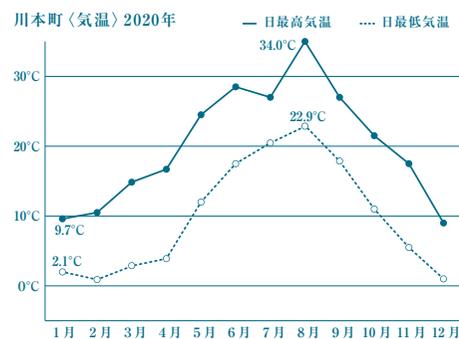
川本町は、豊かな自然環境に都市の利便性が機能する「コンパクトタウン」です。
交流の町として発展してきた歴史から、都会的な感覚、外部の人間を受け入れる寛容
さがあり、移住者にとっても「移住しやすい町」とわれています。

人口

人口	男	女	世帯数	15歳未満	65歳以上	高齢化率	
3,034人	1,436人	1,598人	1,609世帯	279人	1,360人	44.8%	※令和6年1月現在

気候

川本町の気候は山陰地方特有の高温多湿型で平均気温は約14℃、年間の降水量は約1,700～2,000mmです。近年、全国的な問題となっている水害等の治水対策にも力を入れています。年間を通じて比較的温和な気候ですが、12月～3月は最低気温が0℃を下回る日もあるため、水道管の凍結等には注意が必要です。積雪は年に数回（10～20cm程度）あるものの、日中の平均気温が高いことから根雪になることはありません。



交通事情

町内の交通手段にはバスのほかにタクシーもありますが、車は大人1人に1台が必要といわれるほどの必需品です。信号機が数えるほどしかなく、長距離の運転にもほとんどストレスを感じないため、片道1時間の道程も十分に生活圏内です。冬季は路面の凍結に備えてスタッドレスタイヤが必要で、四駆車が推奨される居住地域もあります。

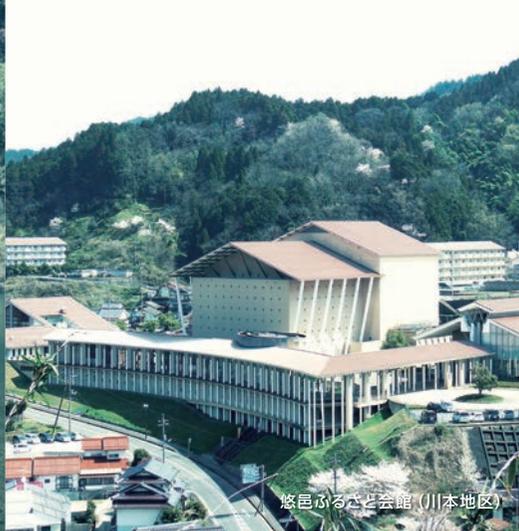


川本東大橋 (川本地区)

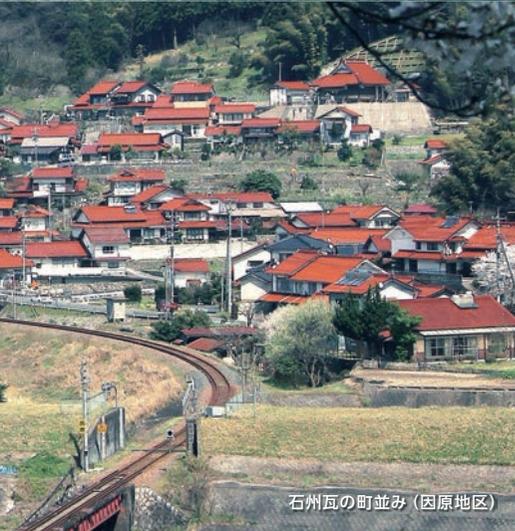




江の川の河川敷 (川本地区)



悠邑ふるごと会館 (川本地区)



石州瓦の町並み (因原地区)



商業施設 (因原地区)



円山からの雲海 (三原地区)



田園風景 (三原地区)



生活事情

「弓市商店街」のある川本地区には徒歩圏内に商店や飲食店、公共施設や医療・金融機関などが揃っており、生活に大変便利です。

因原地区にはスーパーや道の駅のほか、コンビニ、ドラッグストアやホームセンターなどの商業施設が集まっていて、農村部である三原地区からも車で10分程度の位置にあります。

町内には意外なほど飲食店が多く、レトロな雰囲気を楽しめる呑み屋さんなどもあります。



弓市商店街 (川本地区)

インフラ

○:可 △:一部地域で不可

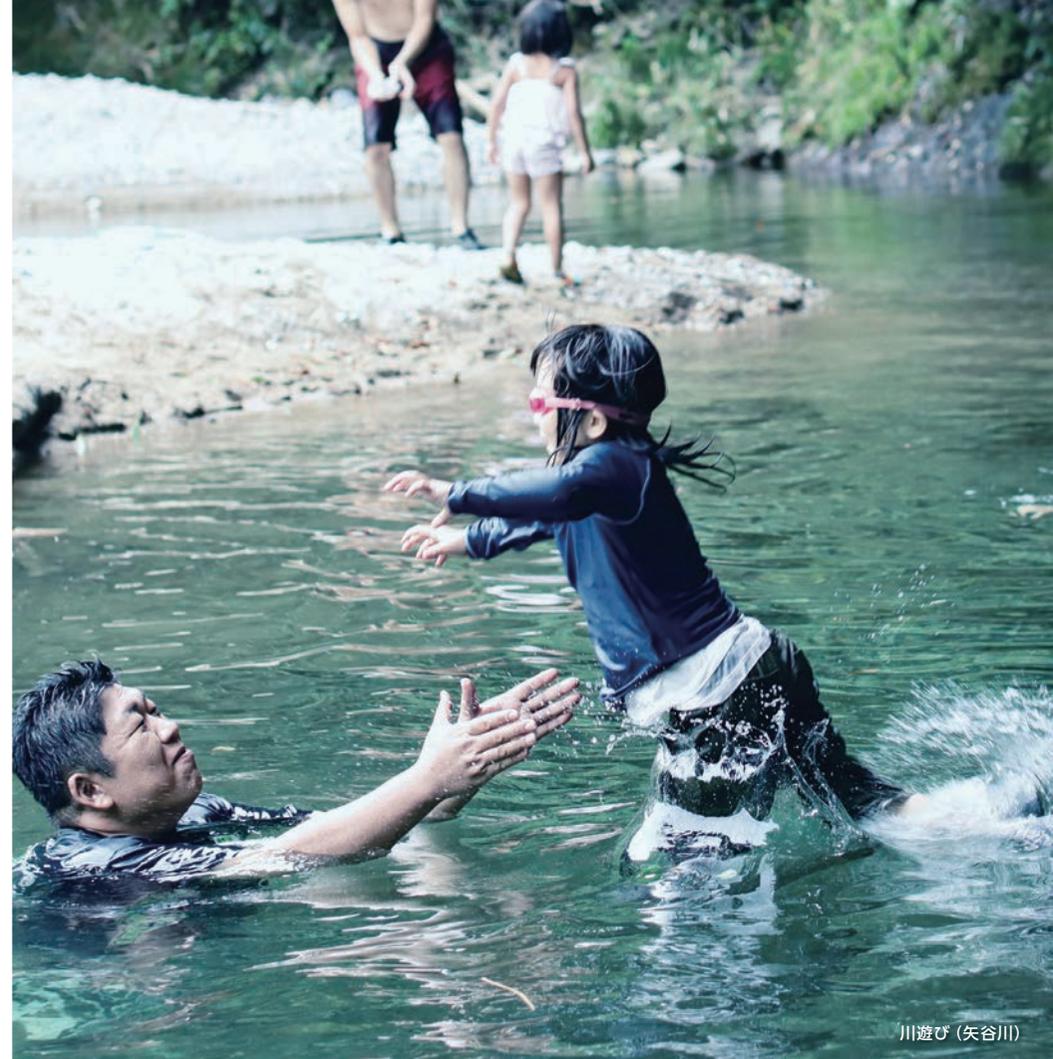
光回線	CATV	携帯4社	ガス	下水	救急医療機関
○	○	△	プロパン式	合併浄化槽	車で約20分

※下水は一部地域で集落排水となっています

豊かな自然との中で地域に大切にされる 川本町での子育て

土手を散歩したり、原っぱで昆虫を探したり、自然を身近に感じながらのびのびと遊び、学ぶことができるのが、川本町での子育ての一番の魅力です。季節を肌で感じながら人と触れ合い対話することは、情操教育としても良い影響を子どもたちに与えてくれます。

また、子ども一人ひとりが地域に大切に见守られていることも、川本町での子育ての大きな魅力です。新鮮な食材に恵まれ、安心して子育てができる環境。定住の理由に子育て環境の良さを挙げる移住者が多いことから、都会での生活との大きな違いといえます。



川遊び (矢谷川)

子どもの安全

川本町では地域全体で子どもを見守る文化があり、交通事故等のリスクが低く犯罪等もほとんどないため、子どもたちが安全に過ごすことができます。日常の中で地域の様々な人と多く関わることで、自然に社会性を身につけることもできます。

保育・医療の安心

川本町には3カ所の保育施設があり、いずれも待機児童はいません。町の中心部には歯科医院や総合病院があり、郡内には24時間体制の救急医療機関である「公立邑智病院（車で20分程度）」があります。乳幼児医療（小児科）に対応し、緊急時にはドクターヘリによる大学病院等への搬送が行われます。

全国トップレベルの子育て支援

川本町では所得制限なしの保育料無料や保育所での完全給食の実施（無料）、小学校・中学校の給食費全額無料、高校卒業までの子どもの医療費全額無料などの子育て支援に町を挙げて取り組んでいます。詳しくは、別冊「川本町Uターンパンフレット／移住後の支援制度一覧」をご覧ください。



子育てサポートセンター「あそびのひろば」（悠昌ふるさと会館）



三江線レールバイク(旧石見川本駅)



保育所「田植え体験」

川本・因原・川本北保育所

川本・因原・三原地区のそれぞれに規模の異なる保育施設があり、田植えや芋掘り、川遊びなどの自然環境を活かした様々な体験活動を取り入れた保育が行われています。

所得制限なしの保育料全額無料／完全給食による食育推進(全額無料)／土曜保育・障がい児保育に対応／一時保育の実施(川本保育所のみ)

病児保育室 コスモス

郡内の邑智病院に併設された病児保育施設「病児保育室 コスモス」では、専任の保育士と看護師が日中の病児保育を行っています。

保育料：1,000円／半日 2,000円／1日
(別途有料の食事サービスあり)



病児保育室 コスモス(公立邑智病院)

在宅児家庭支援 子育てサポートセンター

子育てサポートセンターでは、在宅児家庭の集いの場としてベビーマッサージや絵本の読み聞かせ、育児相談等のイベントを定期的にも実施しています。移住したばかりの方も気軽に地域の方々と交流できる機会となっています。

K-POP かわもとぼかばか親子プロジェクト

未就学児も対象に町教育委員会が実施しているK-POPでは、「タケノコ掘り」や「鮭の観察会」など毎回ユニークなイベントを企画しています。自然を通して親子のふれあいの時間を育むことを目的にした、移住者家族にも大好評の社会教育イベントです。



K-POP「タケノコ掘り」

出産・子育て支援制度一覧



少人数だからこそその魅力、小・中・高の連携教育 川本町の教育環境

川本小学校

生徒数は1学年20人前後です。仲間づくりを基盤とした個々の学力向上にむけた「学び合い学習」に力を入れています。通学は、徒歩、またはスクールバスによる集団登校です。

地域に学ぶ「ふるさと教育」の推進／学習支援員による学習サポートの充実／トップアスリートから学ぶ「夢先生授業」の実施／電子黒板・タブレット端末を生かしたICT教育／完全給食による食育推進（無料）／図書館司書の常駐／専任ALTの配置／全教室・体育館にエアコン設置／制服指定

放課後の子ども居場所 子育てサポートセンター

子育てサポートセンターでは、地域住民（サポーター）の協力により、小学生を対象とした放課後の子どもの居場所事業（児童クラブ）を開設しています。

平日放課後～18:00／長期休暇・学校休業日（8:00～18:00）

川本中学校

1学年20人前後の小規模校ですが、吹奏楽部や軟式野球部、バレー部などの部活動では多くの実績もあげています。通学は、徒歩、自転車、またはスクールバスを利用します。

職場体験などのキャリア教育の視点を持った教育活動／学習支援員を各学年に配置／トップアスリートから学ぶ「夢先生授業」の実施／電子黒板・タブレット端末を生かしたICT教育／完全給食による食育推進（無料）／図書館司書の常駐／専任ALTの配置／全教室・体育館にエアコン設置／制服指定

島根中央高等学校

県内の生徒に加え、しまね留学生として全国から多くの生徒が集まり、寮生活をしながら部活動や地域活動に取り組んでいます。町内に県立高校があることが町の大きな魅力のひとつとなっています。

全国約100校から集まる多様な生徒たち／個々の進路に対応した探究学習の推進／県内唯一の普通科コース制・総合選択制／カヌー部や男女硬式野球部、吹奏楽部などの実績豊富な部活動／学校と地域を結ぶ「Linkベース（教育創生コンソーシアム島根中央の拠点）」が生徒の地域活動をサポート／組み合わせ自由で人気の制服／県内初のユネスコスクール認定校／地域みらい留学365（高2留学）受け入れ校





かわもとジュニアスポーツクラブ (川本中央スピリッツ)

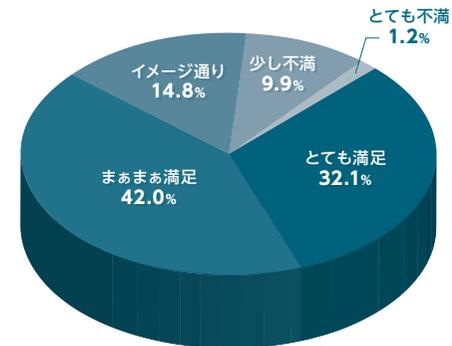


こども神楽 (川本神楽団)



あそラボ

川本町の教育環境に満足していますか？



※川本町移住者 (2010~2021年の転入者) 意識調査アンケート結果より抜粋

KSC かわもとジュニアスポーツクラブ

小学生を対象としたジュニアスポーツクラブでは、地域の指導者による様々なスポーツ教室があります。費用の安さに加え、体育館などのスペースや設備を贅沢に使えるのも魅力です。

軟式野球/剣道/フットサル/バレーボール/ミニバスケットボール

あそラボ

コミュニティカフェ「^{オレンジ}Orange」を拠点とした多世代交流ができる地域活動グループ「あそラボ」では、ボランティアの大学生や地域住民のサポートのもと、中・高生が中心となってカフェの運営やイベント出店、野菜の栽培・販売などの活動を行っています。また、小学生や未就学児も楽しめるイベントも定期的に開催しています。

子どもの習い事

英会話やピアノ、そろばん、書道、スイミングなどのほか、「石見神楽」や「江川太鼓」などの伝統芸能の団体に所属しているお子さんもあります。町内にも学習塾がありますが、オンライン学習塾等を利用する家庭もあり、町外を含め様々な選択肢があります。

子育て環境の最新情報



人生設計に合わせて選べる 川本町での住まい

川本町では、空き家バンク制度の活用や最大200万円の住宅助成金、定住促進住宅の整備などの取り組みによって都市部よりも戸建住宅等への入居がしやすいのが特徴です。近年、移住希望者にとっても住宅環境に対する意識は高く、理想の住まいを目的に移住を決断する方もいます。

川本町では一部地域を除き、下水道ではなく合併浄化槽を使用しているため、その維持・管理費が別途必要となります。また、ガスはプロパンガスとなりますが、近年はオール電化の住宅も増えています。



空き家バンク

空き家バンクは、空き家の売却・賃貸を希望する所有者からの空き家登録を受け、ホームページ等で物件情報を公開する制度です。川本町ではトラブル回避のため、専門家である宅地建物取引事業者（仲介事業者）が所有者への仲介・交渉を行っています。

※物件の賃貸・売買は宅地建物取引事業者を介した所有者と希望者の直接契約となります



かわもと暮らし【川本町空き家バンク】



定住促進住宅（三原地区）



リノベーション住宅（購入）

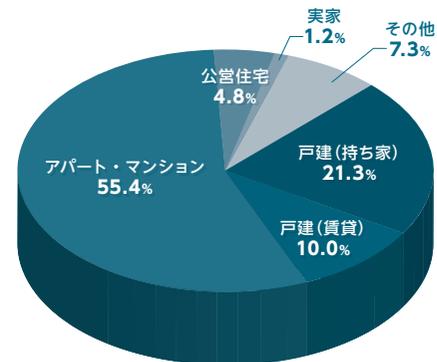


世帯向け町営住宅 (因原地区)

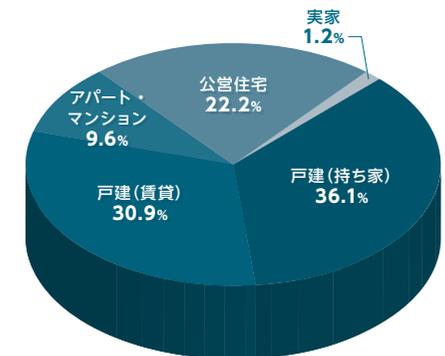


戸建住宅 (賃貸)

移住前の住居は？



移住後の住居は？



※川本町移住者(2010~2021年の転入者)意識調査アンケート結果より抜粋

定住促進住宅

町が提供する新築戸建て(木造二階)専用駐車場付のオール電化住宅です。家賃は2.5~4万円/月+子ども1人につき5千円が減額されます。(最長10年/3人まで)

※募集状況は年度により異なりますので最新の募集要項をご確認ください

町営住宅

町が管理する集合住宅です。世帯用・单身用とがあり、入居には所得条件等を満たす必要があります。ペット可の戸建住宅もあります。

※家賃は所得により変動します

民間アパート・賃貸住宅

町内には単身者向けのアパートが比較的多く、入居状況は随時変動します。家賃相場は1Kで4万円前後となっています。

新築・中古住宅購入助成金

新築または中古住宅を購入される場合に費用の一部(最大200万円)を助成する制度があります。



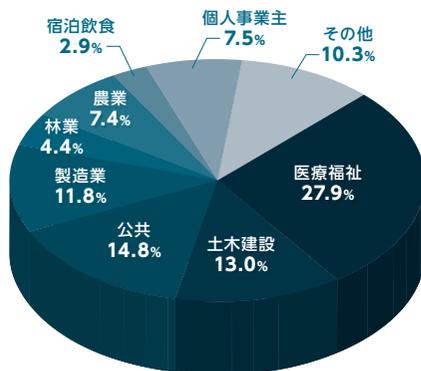
就職や起業を町をあげて支援

川本町での仕事

移住を検討する上で、仕事はとても大切な要素です。川本町へ移住した方へのアンケート結果からは、土木・建設、医療・福祉、製造業などへの就業が多いことが分かります。資格を必要とする職種もありますが、町内企業は移住者の採用に意欲的でIT関連など前職の経験・知識を活かし他業種で活躍している方も多くいます。

就職相談は、町内にある「ハローワーク川本」のほか、移住についての相談窓口である「一般社団法人 かわもと暮らし」で事業所の紹介等を行っています。

移住後の職種は？（無職・専業主婦を除く）



※川本町移住者（2010～2021年の転入者）意識調査アンケート結果より抜粋

就業支援

川本町では農業などの第一次産業の就業支援に力をいれており、多くの移住者が農・林業の分野でも活躍しています。また、地域おこし協力隊制度や開業支援制度を活用した町内での起業、マルチワークやリモートワークなどの新しい働き方を実践している方もいます。



図書館司書 かわもと図書館



えごま農家 農と里山 S-oil



看護師 社会医療法人 仁寿会



デザイナー RIVERBANKS



保育士 川本福祉会



製造員 (株) 三協 島根川本工場



測量士 (株) 新興建設コンサルタント



役場職員 川本町



事務員 (有) Willさんいん



事務員 (株) オーサン O-SAN FARM

地域おこし協力隊制度

川本町では雇用型と委託・起業型の2つの受け入れ体制を設け、隊員の活動支援補助金の支給等を明確に制度化しています。採用日は、原則4月1日と10月1日の年2回です。詳しくは、別冊「川本町Uターンパンフレット／川本町地域おこし協力隊」をご覧ください。



かわもと暮らし【地域おこし協力隊】

就農支援



島根県には65歳までを対象とした就農支援制度があり、専業農家や半農半Xなど目指す就農スタイルに合わせた様々な支援を行っています。

かわもと暮らし【新規就農支援】

産業体験プログラム

島根県にUターンし、農業・林業・漁業・伝統工芸・介護分野の産業を体験する方に12万円／月（1年間）の体験者助成金を支給しています。更に中学生以下の子どもがいる家庭には1世帯あたり3万円／月が加算されます。



くらしまねっと【Uターンしまね産業体験】

起業支援



川本町商工会による創業・経営支援サイトでは、起業に関する補助金や空き店舗の情報のほか、先輩起業家のインタビュー記事等も掲載しています。

川本町商工会【つながる、かわもと。】

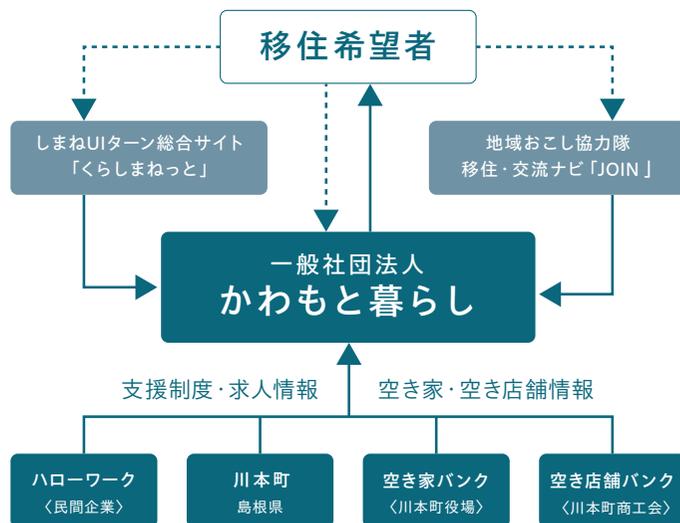
最新の求人情報、起業・就農に関する支援一覧



あらゆる相談にワンストップで対応する

移住総合相談窓口 **かわもと暮らし**

川本町では、移住・定住についての総合相談窓口「かわもと暮らし」を開設しており、専任のスタッフが、仕事・住まい・子育てなど、移住・定住にまつわるあらゆる相談にワンストップで対応しています。メール、電話、オンラインでの個別相談はもちろん、移住体験ツアーや空き家バンクの情報提供も行っています。



私たちが全力でサポートします!



移住プランナー **浪崎 健一**



私も2015年に静岡県から家族で移住してきました。移住先の生活に求めるものは、人それぞれですが、相談に来られる方の思いを大切に、住居や就業先、保育所や学校など移住後の生活も含めしっかりとサポートいたします。個々の事情にも柔軟に対応しますので、まずはお気軽にご相談ください。

川本町移住体験プログラム

事前の相談内容を踏まえ、職場体験や空き家見学のほか、保育所や学校、商業施設、病院など「この町で生活する」ことを前提としたオーダーメイドな体験プログラムを個別に作成いたします。(宿泊費無料)



かわもと暮らし「移住体験プログラム」





(株)スエヒロ 森谷 太郎 さん

野球が盛んな川本町にあって、小学校の頃から野球三昧。岡山の高校、広島に大学に進学し、島根県の企業にUターン就職する。

釣りなどの趣味も増えたが、地元の先輩や後輩たちと野球をするのが今は何よりの楽しみ。目標は地元チームで国体に出場することで、川本町が軟式野球の会場となる2030年の島根国体開催が今から待ち遠しい。



邑智郡森林組合 小溝 一平 さん

前職は航空自衛官。転職が多いことなどから転職を考えていたときに林業の奥深さに魅せられ移住を決意。産業体験プログラムを活用し、邑智郡森林組合にUターン就職する。

いきなり裏山付きの一軒家を購入すると念願の時ストープもゲット。集落営農や地域イベントに積極的に参加し、狩猟免許も取得して野生動物と格闘する日々。子ども4人と犬2匹の大家族。



OTO-LaVo 相原 由紀 さん

母親の出身地である川本町。自分の記憶にもある豊かな自然の中で子育てをしたいという理由から家族での移住を決めた、いわゆる孫ターン。

時間の融通の利くテレワークスペースに勤務しながら、イベントで手作りのアクセサリーを販売したり、読み聞かせのサークルに参加したりと遊ぶように暮らす毎日に大満足。定住促進住宅の新築戸建に住まう。

デイビット・セナン・ヌモンビイー さん

出身はスワジランド王国(現エスワティニ王国)というアフリカの一国。結婚を期に来日し、どこか故郷を思い出させる川本の風景が気に入り、家族でUターン移住する。

最初は日本語がうまく話せず苦労しましたが、産業体験プログラムを活用して就業先を得てから、現在は林業関係の仕事に従事している。力仕事はお手のもので、保育所の綱引き大会では大活躍。



先輩移住者に学ぶ

先輩移住者紹介

川本町は人口3,000人の小さな町ですが、これまでも多くの方々が様々なかたちで移住されています。SNSなどを通じて情報交換を行い、緩やかな繋がりの中でお互いに助け合いながら、それぞれの移住後の生活を楽しんでいます。

繁殖農家 岡田 繁樹 さん

帯広の大学を卒業後、1年間はフリーターをしながら外国を旅するなどし、晴れて川本にUターン。家業の畜産業を継ぐ。

繁殖農家として黒毛和牛の繁殖・飼育に従事して早6年。365日気の抜けない生き物相手の仕事はもちろん大変だが、だからこそそのやりがいも。同じ若い世代の同業者がいないのが目下の悩みではあるが、既にその付まいは貫禄さえ感じさせる。



紙布織山内 山内 ゆう さん

東京、京都で和裁・染織を学び、安来市の出雲織工房に入門。その後、川本町に移住し、地域おこし協力隊として活動。染織家として独立後は、木綿や石見地方に代表される石州和紙を用いた紙布織の制作を行っている。

町の人たちからの応援も受け、今後も川本を拠点として制作を続けていくように日々創作活動に励む。



やんちゃんの里 山口 瑞恵 さん

短大卒業後に英国での語学留学を経験。大阪で金融会社に勤めていたが、コロナ禍で在宅勤務となり将来のことを自問する中、家業のどぶろくづくりを継ぐため帰郷する。

自家栽培米を原料にしたどぶろく・甘酒の販売を行っていて、若い女性客にも喜んでもらおうとパッケージのデザインを一新。どぶろく特区の新たな担い手として奮闘中。



114 Films 木下 陽介 さん

東京に進学した後、一旦は名古屋で就職するも、結婚を機にカメラマンとしての活動をスタート。コロナ禍の中で家族でのUターンを決意する。

映像作品の受賞歴は豊富で、民間企業や大学、自治体など全国から制作依頼を受ける中、川本町民とつくる小さなメディア「かわもとTV」の運営も行い、地域に新たな話題を創出している。地元愛溢れる2児の父。

UI-TURN 誰もが活躍できる町

島根県川本町移住パンフレット 2024-2025

